

令和 8 年 10 月 15 日 【木曜日】

旭川聾サポーターズ交流

給食囲んで親睦

手話と身ぶりで心交わす

【旭川発】旭川聾学校（門真義弘校長）は8日、同校体育館で、独自に組織したボランティア団体「旭聾サポーターズ」との交流会「みんなで食べよう！おいしい給食」を開催した。写真。サポーターと小学部・中学部の児童生徒、教職員



らが参加し、給食を囲みながら温かい交流を深めた。次期学習指導要領を見据えた校内研修会（9月28日付7面既報）の内容を踏まえ、地域住民を単なる支援者にとどめず教育活動のパートナーとして位置付ける実践の一端。

同サポーターズは、コ

ミュニティ・スクール（CS）の機能充実や地学協働の推進を目的に前年度立ち上げた独自の支援組織。発足から1年が経過し、現在の登録者数は63人、校長による講習を経て活動資格を得た登録証所持者は43人まで拡大している。

これまでも絵本の読み聞かせや校外学習の記録撮影、乳幼児教育相談における託児、

同校では9月18日、上川教育局の佐藤麻友美社会教育指導班主査を招いた校内研修会を実施。「サポーターを人手不足

を補うお手伝いさんで終わらせず、学校教育目標を共有する協働パートナーとして参画を促す」方針を全職員で共有した。今回の交流会は、この学びを教育課程の実践へとつなげるべく、児童生徒や教職員がサポーターと直接顔を合わせ、互いの人柄を知り合う場として企画した。

当日は開会に先立ち、サポーターと教職員が一体となつて体育館内の長机やいすのレイアウトといった会場設営を実施。はじめに門真校長があいさつに立ち、

日頃の温かい支援に謝意を伝えた上で「子どもたちもサポーターの皆さんとの出会いを心待ちにしていた。互いに顔と名前を覚え、親睦を深める有意義な時間にしてほしい」と呼びかけ

た。

正午過ぎ、体育館に集まった児童生徒の前にサポーターが登壇。一人ひとりが手話や口話を交えて笑顔で自己紹介を行った。続いて配膳準備では、サポーターと教員がエプロンやマスクを身に着け、児童生徒が持参したトレイに手際よくカレーライスやサラダ、ゼリー、牛乳を盛り付けた。

会食が始まると、体育館に設けた四つのグループテーブルごとに和やかな対話が広がった。児童生徒は身ぶりや手話などを駆使しながら、日常の学校生活や好きな教科などについて語り合い、サポーター側も温かいまなざしで耳を傾けた。



集合写真（児童生徒、サポーターズ、保護者、教職員）



～交流当日のイメージ～